

## NS物流研究会が3大学対抗研究発表会を開催

### 海洋大の中国宅配便に関する研究が優勝



東京海洋大学Aチームが優勝

NS物流研究会(樋口恵一会長)主催による「3大学対抗・物流関連ゼミ学生の研究発表会」が5日、東京都トラック総合会館(東京都新宿区)で開催され、100人が出席した。今回は、神奈川県大

学の齊藤実教授のゼミ、東京海洋大学の黒川久幸准教授のゼミに加え、新たに流通経済大学の小野秀昭教授のゼミの学生が参加し、日頃の研究成果を発表した。全5チームのうち2チームが中国宅配便をテーマに設定するなど、学生のグローバル物流への高い関心がうかがえた。

NS物流研究会は、2005、06年度に国土交通省が開催した「若手トラック経営者等によるトラック事業の明るい未来を切り開く方策等を検討する研究会」に参画したメンバーが、その後自主的な研究会として活動するために設立された。物流を学ぶ学生の研究支援を通じて、その研究成果を業界に役立てるとともに、有能な人材が物流業界に多数入ってくることを願い、物流関連ゼミで学ぶ学生の研究発表会を企画している。

樋口会長(川崎陸送)は「全国で物流を研究している学生や大学は少ない。学生たちに研究成果を発表する場を提供することも我々の仕事だと考えている。東日本大震災以降、物流の重要性がクローズアップされているが、物流はどんなビジネスにも付いて回る。学生が将来いろいろな職業に就いた時に、物流の知識や研究成果が活用されれば、日本の物流の将来は良くな

る」とあいさつした。研究発表会では、「日中比較を通じた中国宅配便市場の成長性と課題の検討」(流通経済大学)、「モチベーション向上による持続的成長企業への方策」(神奈川県Aチーム)、「中国における宅配便の将来性に関する研究」(東京海洋大学Aチーム)、「物流業者におけるリスクマネジメント」(神奈川県Bチーム)、「ポールピッキングにおける作業改善に関する研究」(東京海洋大学Bチーム)についてプレゼンテーションが行われた。

優勝した東京海洋大学Aチームは、経済政策の方針を内需拡大に転換させた中国で急成長が期待されている宅配市場に着目。ネット通販の成長により荷物の取扱数の急増が予想されている中、遅延・損害・紛失など中国宅配便の問題点を指摘し、「宅配市場の拡大が見込めない恐れがある」と報告。中国宅配事業に進出している日系物流会社2社(ヤマト運輸、佐川急便)の戦略を分析し、日中宅配事業の比較考察を行った。

具体的には、2社の中国宅配事業における共通点として「サービスマネジメントを上海市内に限定し、設備の建設に大量投資した」ことを挙げ、「ある地域に設備投資を集中し、より細かくネットワークを作ると荷物の取扱個数が増える」と分析。中国宅配会社の今後の展望として、「収益性の高い地域に資本を集中投資し、さらに事業を拡大するために他地域の会社とアライアンスを組んで幹線輸送を作るべき」と提言した。

なお、表彰式では、東京海洋大学のAチームには優勝トロフィーが贈られた。中田純一副会長(中田商事)は、「研究発表会を始めた3年前よりも、学生の研究のレベルが上がってきている。発表の中で、自社で採り入れたいものもあった」と、樋口氏も「前回の発表会で出された質問を想定し、発表を準備している。毎年レベルが上がっていくようにしてほしい」と学生にエールを送った。

Twitterで「物流」のつぶやきを開始しました!!

アカウントはcargo-NEWSです。